

学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588 東京都豊島区
目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
発行人・編集人
井上 愛梨
年間500円

BOOKS
KINOKUNIYA

紀伊國屋書店

学習院大学
ブックセンター

西2号館1階
営業時間 10-17時

03-5953-4420

2時間の価値とは？

紙面紹介

- 3 南米の新年の過ごし方
- 4 硬式庭球部特集
男女ともに4部昇格！

学習院大学新聞社



@gakushuinpress

一緒に新聞を
作りませんか？
新入部員随時募集中！

気軽に follow me!

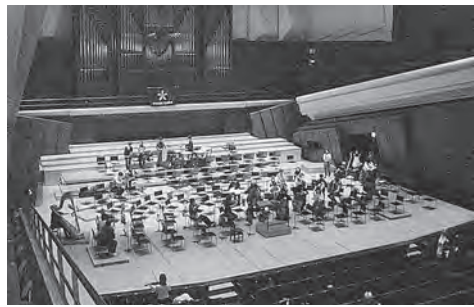
音楽部による圧巻のステージ 第69回 定期演奏会



11月30日(日)、学習院輔仁会音楽部による第69回定期演奏会が行われた。音楽部全員で作り上げる1年で一番大きな演奏会。指揮者に中田延亮氏、テノールソロに隠岐速人氏、バスソロに後藤春馬氏、ゲストにハープストの新坂拓子氏を迎えた。賛助のOB・OGを含め、総勢約200名の豪華ステージ。音楽部による圧巻のパフォーマンスに迫る。

会場のすみだトリフォニーホールは、奥行きのある厳かな場所であった。今回の曲目は、ヴェルディ作曲「歌劇「ナブッコ」序曲」／チャイコフスキー作曲「イタリヤ奇想曲、プッチーニ作曲「クローリア・ミサ」である。総務委員長の近藤菜恵さん(経3)に曲への思い入れについて伺った。「特に思い入れのある曲は、合唱団と管弦楽団が合同で演奏したクローリア・ミサです。プッチーニらしいオペラを連想させる、荘厳でかつエネルギーに満ちたこの曲は、演奏会を通して私たちの思い出の曲となりました」と教えた。またイタリア奇想曲については「技巧的な旋律が多く、完成までに長い時間を要しました。細かいフレーズを含めるのは容易ではありませんでしたが、練習を積み重ねる中で少しずつ形になり、最終的には華やかで色彩豊かな演奏に仕上がったと思います。イタリアらしい明るさや開放感を表現できたことは、私たちにとても大きな達成感につながりました。困難を乗り越えて音楽を完成させる喜びを改めて感じることができました」と曲への思い入れが伝わってきた。

最後に、管弦楽団責任者の



の米澤佑子さん(経3)に今後の活動についてお聞きした。「オーケストラや合唱と違って、硬い演奏会のイメージがあるかもしれないけれど、大学生なのでそんなことは全くありません。クラシック音楽を聴いたことがない人も、一度音楽部の演奏会に来て、クラシックを好きになるきっかけにしてください。これから先のみなさんの卒業式では、舞台上で演奏している音楽部に注目してください」と意気込みを語った。次回演奏会は、2026年3月1日に百年記念会館で行われる卒業演奏会だそう。4年生の引退公演としてコンチェルト等を演奏される。部員の力を合わせ、壮大なハモニーを作る音楽部。ぜひ次回の公演に足を運んでみてはいかがだろうか。(青木友香)

認知度アップを目指して さくまサンを愛する会



みなさんはさくまサンを知っているだろうか。学習院の広報大使であり、おでこにあるさくまコプターが特徴である。そんなさくまサンを大切にしている人達により、「さくまサンを愛する会」が今年結成された。本学の任意団体である。今回はそんな会の魅力について紹介していきたい。

さくまサンを愛する会の会長、岩瀬遥さん(物4)にインタビューをさせていただいた。

誕生のきっかけ

岩瀬さんは会を発足させた当事者でもある。まず誕生のきっかけから伺った。「私がオープンキャンパスの立て看板を見て、キャラクターのかわいさに印象を受けました。本学に受かったからか推してみようかなと思ったのが始まりです」とさくまサンへの愛を語ってくれた。

会の発足まで

次に会の発足についてお聞きした。2月頃、岩瀬さん

活動内容

気になる活動内容についてお聞きした。もともとオ



岩瀬遥さん(物4)

知りたい！○○学科

史学科編

史学科は一年生90人前後の人数で構成される。ここでは日本史・東洋史・西洋史の3分野一体のカリキュラムの中、ゼミを通して専攻分野を掘り下げ、卒業論文を執筆する。三位一体のカリキュラムは学習院特有のものである。1年時に幅広い範囲での歴史を学習し、それから専攻を確定させるのだ。

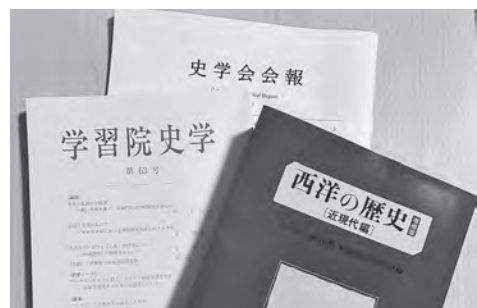
演習は、1年は基礎演習、2・3年はゼミ演習、4年は4年生演習と学年によって変化がある。卒業論文の執筆や発表に大きく関わるこのゼミに選考はなされる。関心のある地域・年代に最も近い研究をしている先生のゼミに入るのだ。現在は、近世・近代の日本史を研究するゼミが人気を集めている。

ゼミでは授業時間を使う演習のほか、長期休暇の間に合宿を行い、発表を行う。ゼミによってはゼミコンパや卒業論文の打ち上げが行われることもある。それら

のイベントを通じて同じゼミに所属している同級生や先輩と仲が深められる。

卒業要件には、卒業論文、言語と体育の必修、選択必修、特殊講義が存在する。英米文学科が英語を学ぶことは想像に易いが、実は史学科でも言語は重要である。中国史を学ぶために中国語を学んだり、漢文を学んだり、専門とする分野の史料を読むために言語が必要になるために。

選択必修では考古学や史料入門、アーカイブズ学を履修している学生が多い。特殊講義では、日本史・東洋史・西洋史の3分野を



最低4単位ずつ、合計20単位習得する必要がある。幅広い地域・時代を学ぶことができ、選択の余地が広い史学科。自分の学びたい分野を吟味することができたらう。(兼望)

第44回経済学部 同窓会開催

11月15日(日)百年記念会館にて、第44回経済学部同窓会が行われた。本同窓会の講演会では元学務院院長であり現在名誉院長、旭日中級章受章、スポンサー面でもホッケー協会副会長、日本オリンピック委員会名誉委員、また旧学母藩(現在の愛知県豊田市)内藤家15代



当主でもあり昨年『内藤実記』を刊行された内藤政武氏によるものであった。演題は「600人の物語が紡ぐ、家の記憶」だ。

始まる直前、会場では各々挨拶や名刺交換をしている姿があった。そして講演が始まるとまずは内藤といた苗字の由来からお話しされた。内藤という苗字は藤原鎌足からきており「内舎人の藤原氏」という意味である。内藤家は日本各地で栄枯盛衰の物語を持つ



内藤政武氏

た4つの内藤氏があり、それぞれ丹波国系、周防国系、甲斐国系そして今回の内藤政武氏が当主を務める三河国系だ。その中でも特に栄えたのは三河の内藤氏であった。内藤家は約7家の大名を始め家臣など合わせて58家が存在しており、各々何万石と出世をしている家もあり、現在の虎門や六本木などに土地を保有している。ここまで聞くと成功ばかりの内藤家で華やいていっているように見えるが、そんな内藤家にも失態をおかしてしまった家がある。

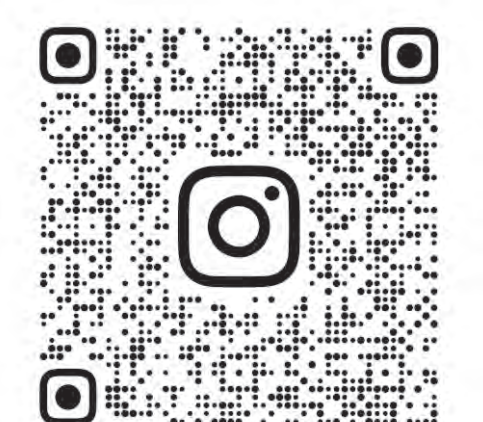
一例をあげると、ある内藤家は居眠りをしていたため将軍の出に気づかず、伊豆の大島に流されてしまったという成功ばかりではない意外な一面もあった。また内藤家は藩校にも力を入

明窓淨机

12月14日に百年記念会館で行われた、学習院大学応援団吹奏楽部による第28回定期演奏会。私も演奏者として参加した。壮大な曲から誰もが知る名曲まで、たくさん曲を観客とともに駆け抜けた。その中でも印象に残ったのは、私たちがパッションパート全員で行った、打楽器九重奏だ。演奏会では開演までの時間や舞台の転換の時間を待つ複人数での演奏、いわゆるアンサンブルがよく行われる。今まで私が見聞きしたアンサンブルは、金管楽器や木管楽器によるものがほとんどであった。演奏会での打楽器だけのアンサンブルは体験したことがなかったため、練習の時から緊張していた。そのような練習だが、9人となると全員の揃った時にそれぞれが完全な状態で調整することができた。本番では広い舞台上に9人しかいないと実感し、マレットを持つ手が震えたが、その緊張もみんなの顔を見たことでおさまった。大好きな仲間と大好きな音楽を奏でる。このような貴重な体験は一生忘れないだろう。(愛)

学習院国劇部

学習院国劇部は歌舞伎の実演研究を行う部活です。



硬式庭球部女子



硬式蹴球部女は、2025年9月12日から同月28日までの間、有明テニスの森テニスコートを中心として行われていた関東大学テニスリーグ(通称:リーグ戦)に出場し、見事4部昇格を果たした。リーグ戦には、5部までが存在しており、1から4部までと、5部では大きな違いがあるという。1から4部までは各6校で構成されており、総当たり戦で各順位を決める。一方で、5部は20校以上の大学が所属しているため、複雑な手順が必要となる。最初に、いくつかのブロックに分けられ、総当たりの戦を行うその中から1、2位となった大学が決勝トーナメントへ進み、優勝が準優勝になると、4部への入れ替え戦の挑戦権を得ることが出来る。入れ替え戦は、上の部の下位にあたる2大学と、下の部の上位2大学がそれぞれ戦い、残留か昇格かを争う。まさに下剋上が行われる試合なのである。本学は5部のブロック総当たりの戦を勝ち抜き、さらに決勝トーナメントでも過酷な戦いを制し、優勝を飾った。続いて4・5部入れ替え戦では、4部6位だった東京女子体育大学が対戦相手であった。格上の相手にも関わらず、本学は自らのペースを崩さずに6勝1敗と快勝し、4部への昇格権を決めた。

硬式蹴球部女子主将の岡田桃奈さん(国3)に昇格への思いを伺うと「選手は選手として試合に出て勝つ、大会に出られない、メンバーではない人は全力で応援して選手を支えるなど、個々が役割を果たしてこそチーム力がありました。今年はそれが強いと感じていたので、昇格できるのではないかという期待がありました。OG・OBや保護者の方々も試合当日、応援に駆けつけてくださったのでも盛り上がりは大きかったです」と笑顔で答えた。

また「2月には個人戦である関東学生新進テニス選手権大会が控えているのでも、よりパワーアップした姿を見せられるように、試合で発揮できるようにしていきたいです」と次の大会への意気込みを語った。

笑う門には福来る。笑顔顔が素敵な主将が率いるチームのもとには、勝利と栄光が舞い込むであろう。

(高橋由真)

硬式庭球部男子



古くから王侯貴族たちに親しまれてきた競技であるテニス。近代テニスは、1873年にイギリス陸軍のウィングフィールド大佐が考案した。そのわずか約30年後の1902年に、学習院硬式蹴球部が創設された。現在は創部123年と、本学のなかでも屈指の歴史と伝統を誇る。

その本学硬式蹴球部が、2025年関東大学テニスリーグにて、4部へ男女同時昇格を果たした。ここから、古豪の新たな歴史が幕を上げる。

冬の冷たい風が吹き抜ける寒空の下、乾いた打球音が響いていた。

冬の冷たい風が吹き抜ける寒空の下、乾いた打球音が響いていた。

12月4日、本学硬式テニスコートにて、硬式庭球部男子の練習が行われていた。今年、関東学生テニスリーグ5部1位を獲得した本学の硬式庭球部男子。入れ替へ戦っては、東京農業大学相手に勝利した。4部昇格することでも実力は関東の大学の中でもトップ8%に食い込む。

「と喜びを見せた。本学硬式庭球部はブレイカー18人、マネージャー2人の合計20人で週4回活動している。練習では、学年関係なく実力順に分かれシングルスでの、ボレイ、スマッシュなどを打つ。シングルスがしっかりとしていないとダブルスでできないということから、シングルスを中心にしてトレーニングを行っているそう。基礎を怠らず、練習をすることで技術向上を図っている。

今回は、４部昇格を支えた主将の森健人さん(宮○)にお話を伺った。４部昇格について「１年生の時、自分が負けた試合、リーグに上がらなかった経験をしました。そのため今回全勝し、リーグ昇格やチーム賞献もでき、うれしかったで

テニスの魅力として、森さんは、緊張感と自己完結性を挙げた。テニスの試合には、時間制限がない。ゆえに、勝ついても逆転される恐れがあるため、最後まで緊張感が走る。そのうえ、自分が取るまで、勝ち切らなければいけないことと

A black and white photograph of a young man with dark hair, looking off to the side with a serious expression. He is wearing a dark long-sleeved shirt and is holding a tennis racket. The background is blurred, showing what appears to be a tennis court setting.

す」と喜びを見せた。本学硬式庭球部はプレイヤー18人、マネージャー2人の合

計20人で週4回活動している。練習では、学年関係なく実力順に分かれシングルルスで、ボレイ、スマッシュシングルスなどを行う。シングルルスがしっかりしていないとダブルルスができないということから、シングルスを中心としてトレーニングを行っているそう。基礎を怠らず、練習をすることで技術向上を図っている。

テニスの魅力として、森さんは、緊張感と自己完結性を挙げた。テニスの試合には、時間制限がない。ゆえに、勝ついても逆転される恐れがあるため、最後まで緊張感が走る。そのうえ、自分が取るまで、勝ち切らなければいけないことと

う。また主将として、チームを率いる中で大切にして、いることを伺ったところ、実力やチームへの貢献練習での姿勢などで、背中をみせることで、「す」と熱く語ってくれた。また、全員が1つの目標に向かっていくためには、部員一人ひとりと信頼関係を築くことも大切だと。来年2月に、大々たる関東学生新進テニス大会に対しては、「まず一次予選を勝ち上がり、二次

ダブルス練習中の真剣な眼差し

予選に上るチームをダブルスとシングルス両方で輩出した」と強く意気込む。成長し続ける本学硬式庭球部男子から目が離せない。

構成・レイアウト
取材
高橋 由真
高橋 由真
戸田 美緒
安藤 優衣

硬式庭球部女子
岡田 桃奈主将(国3)



ロツカル

本紙・戸田が辿る本学アスリートの軌跡

喜色満面

今年の夏、念願の4部昇格を果たした硬式庭球部。岡田 桃奈主将(1)



部女子。主将の岡田桃奈さん（国3）はその勝因をチーム力の高さにあると分析した。選手は自分のプレーに集中し勝利へとなげける。その他の部員は全力で応援、サポートする。数年かけて積み上げてきた総合力が実った結果である。去年、一昨年と惜しいところでチャンスを逃していただ

中学、高校とテニス部に所属していた岡田さん。明るく霽風気な意気込みで大学でもテニス部に入ることを決めた。入部して気づいたのは「戦術」で戦うことの面白さだと話す。「高校の時は何年やっているか、どこかの学校に所属しているか、という重要な気がしていた」というが、大学に入って「強い球を打つことが全てではな

2025年も大詰めだ。今年を振り返ってみた時、私は「友人との絆が深まった年」だと感じて、昨年は入学したばかりで、高校とは違う環境に慣れることで必死だった。授業や課題に追われ、気が付いたら冬休みだった。私はこのタイミングで自分の大学生生活を見直すことにした。2024年は慌ただしかったが、それでも月日が経つにつれて自分の心に余裕ができてきた。私はこの余裕を友人関係に使いたいと思った。そして迎えた2025年。私は思っていた以上に、たくさん時間を友人と過ごすことができた。空きコマや昼休みはもちろん、カフェでたくさん話したり、東京ディズニーランドに行ったりもした。特に大人数でのテーマパークは初めてでドキドキしたが、1日中盛り上がり、閉園時間までが一瞬であった。時間がこのまま止まればいいなと何度思ったことか。▼しかし、友人との時間に置き置きすぎて学業を疎かにしていたというわけではない。私はこの1年間、自分なりに両立を心掛けてきた。私が在籍している教育学科では、小学校教員を目指す学生が多いということもあり、発表や模擬授業をする機会が他の学部学科よりも多く、学業という点にさらに加えて、通常の講義にもあるような課題も課される。やるべきことが多い分、とてもやりがいがある日々だ。そんな毎日と友人との時間も大切にしながら過ごしていくためにやはりスケジュール管理が重要な。高校生の時にあれば嫌がっていたスケジュール帳、今では自ら記入するようになり私の相棒となった。2026年はどんな年になるのだろうか。来年度は早いことだろうか。人生は一度しかないのだから後悔がないように過ごしたい。まだ予定があまり書き込まれていない新たな相棒を横目に、私は思いを馳せるのだった。(愛)

A black and white photograph of a young woman in a baseball cap and 'PONY' t-shirt, swinging a bat on a field.

くてどこに何をどういうタイミングで打つのかという戦術がないと勝ち上がれないことを学んだ。戦術を考えて試合を組み立てれば勝つことができる。岡田さんにとってそのスタイルは強い追い風になっていた。平口は2回のナイター練習、土日には練習試合や大会が組まれることも少なくない。ハードな練習量に当初は戸惑ったと話す。しかし、今では部活と勉強の切り替えを身に付け、部活に取り組む時間も充実するようになった。彼女の落ち着いた佇まいもそこから生まれるものなのだろう。最後にこれからに向けた決意をお聞きした。「今年には人数が減り、リーグに出

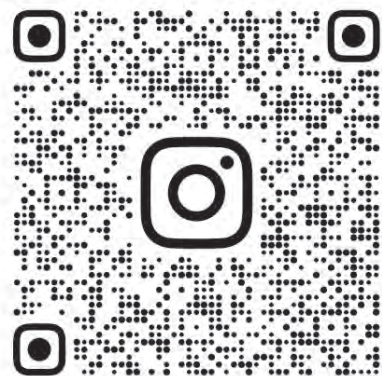
ていたメンバーも減ったので、下を持ち上げ、全体を持ち上げるという考えのもと活動している。全員がレベルアップできるように環境を作つて次の夏には3部に昇格をしたい」と意気込む。また先輩と組んで本戦に出場できたという春の試合に触れ、「今度是我の力でシングルスもダブルスも後輩と組むにしても本戦という大きな目標に向かって頑張りたい」と語った。

主将として部員をまとめる一方、自分のプレーにも全力で取り組む岡田さん。今後のさらなる活躍に期待が高まる。

(戸田美緒)

ピクニッククラブ

参加者募集してます！



©PICNIC.GU

DMお待ちしております！